

ご意見シート（ホームページ「大台ヶ原 森林生態系の再生に向けて」より）

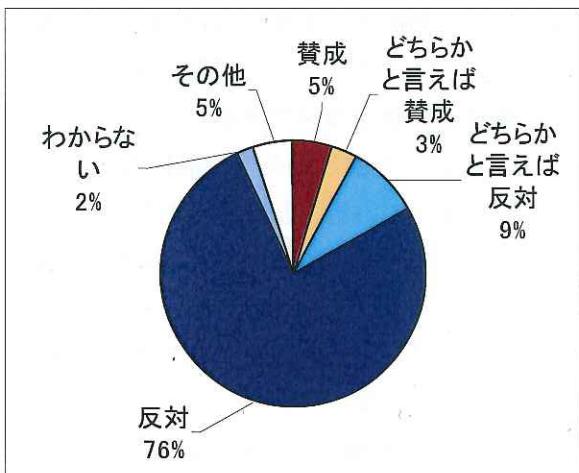
集計結果（最終版）

集計日：10月30日

回答数：101

- 大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画についてどう思いますか。

（回答数101中）



各意見の主な内容

◇反対 (77/101)

- ・特別保護地区には手を加えるべきではない。
- ・まずドライブウェイを閉鎖して、利用より保護を優先すべきだ。
- ・樹皮は食性の8%にすぎないのでなぜシカのせいにするのか？
- ・もし、この案を実行して失敗したら誰が責任をとるのか？
- ・何もしない方が自然保護になる。
- ・人々の責任は森林を伐採した人間にあるのにシカを殺すのはおかしい。子供達に命の尊さを伝えるためにもシカを殺すべきではない。
- ・木が無くなるのも自然。自然の中では動物の自由にしてあげて欲しい。
- ・防護ネット等のシカの食害を防ぐ検討がされていない。

- ・シカの駆除でトウヒの森が回復する根拠が不明。
- ・大台ヶ原のシカの生息数はここ十年ほど増えていない。生息数の把握が個体識別調査でされていなく、トウヒの枯死の原因をシカに求めるのは早計だ。時間をかけて基礎データをとるべきだ。
- ・調査法には誤差がありシカが絶滅する恐れがある。
- ・大台ヶ原を観光地化したのが問題。
- ・第9次鳥獣保護事業計画に基づく特定計画によって行うべきだ。
- ・元々のシカの生息地であった中間山地での生息地確保を担保していない。広く森林生態系保全と野生動物の保護管理をする科学的な計画となっていない。
- ・他府県の自然公園や外国の動物園等で引き取ってもらうことを検討すべき。
- ・大台ヶ原のトウヒの立ち枯れは、周辺の人工林が変化させた風向き、保水等の環境変化や、地球温暖化、酸性雨や踏みつけであってシカではない。日出ヶ岳周辺に環境変化に適応できないものと新しく適応できる動植物を生育し、自然界との共存共栄を図る。
- ・トウヒが今枯れても長い目で見れば元に再生する。入山規制を実行すべき。
- ・植生衰退はシカのせいではなく、酸性雨や排気ガスである。
- ・トウヒ林の枯死はシカではなく地球温暖化と酸性雨及び無制限な入山である。胃内容の調査でもシカがトウヒではなくササを食べていることが明らかだ。
- ・人は生き物を殺さないよう努力すべきだ。シカを殺さなくてすむ方法に税金を使うべき。
- ・山が崩れるのも、木が枯れるのも自然であり、人間がコントロールすべきではない。
- ・緊急対策区域A1で90頭のシカを捕るのは特定の小群を対象とする捕獲であり、保護管理とは言えない。区域全体を防鹿柵で囲うべき。
- ・立ち枯れの場所が山頂部に限られシカの行動圏と一致していない。原因は排気ガスと考える。シカの頭数把握が曖昧であり、たとえ大台ヶ原で減らしても他から移動してくる。
- ・シカの推定密度の根拠は何か？データ不足。
- ・トウヒの枯死はシカによるものではない。確かに食べられてはいるがそれが原因ではない。カナダの国立公園にレンジャーもそういっていた。
- ・大台ヶ原の特別保護地区には法律どおり人の手を加えるべきではない。様々な要因がある中でなぜシカだけがターゲットになるのか？試行錯誤でシカを殺すべきではなくドライブウェイの閉鎖をするべき。
- ・シカの嫌うにおいや味のする物質を使ってはどうか
- ・周辺の植林地を自然林にする方がよい
- ・これまでの「植生保全対策事業」について総括すべき
- ・イエローストーンにならい入山制限や捕食者の導入を行うべき。
- ・シカの数を減少させると遺伝子障害を起こす可能性がある。

◇どちらかと言えば反対 (9/101)

- ・シカが増えているというデータがはっきりしていない。他にも原因があるはず。
- ・シカのストレスを減少するべき
- ・反対するのであれば別の案を示さねばならないが、思い浮かばないから。

◇どちらかと言えば賛成 (3/101)

- ・大台ヶ原の植生を守ることは必要であるが、シカを射殺することには反対。去勢する方法は採れないか?
- ・捕獲したシカを奈良公園に放し遺伝子の多様化に役立てる、歩道の一部ルートの閉鎖や、入山制限の施策が併せてとられるなら賛成する。

◇賛成 (5/101)

- ・動植物の調和のとれた生育に向けて野生ジカに対する人為の介入も仕方がない。
- ・大台のケースは他地域のテストケースとなりうる。ニホンオオカミを絶滅させた人間にはそれに代わる行為をする義務がある。但し今後も十分な調査と捕獲後の処分について地域産業に貢献するよう検討するべきだ。

◇わからない (2/101)

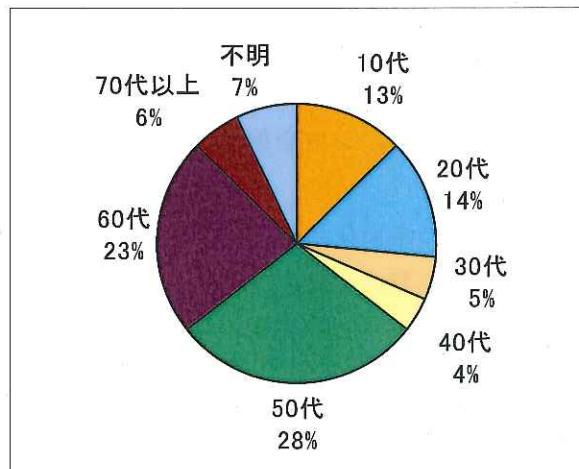
- ・シカの捕獲が大台ヶ原の植生に与える影響を明らかにして欲しい
- ・生き物を殺すにはもっと強い理由が必要

◇その他 (5/25)

- ・大台山系鳥獣保護区の狩猟を解禁し、数の安定を図るべきだ。
- ・トウヒの枯死とシカの数の因果関係を明確にするべき。トウヒの枯死の原因が明確でないなら、トライアンドエラーで行うことを明言しその是非を公に問うべき。
- ・奥山にドングリの木を植えるべき。日本の一郡を人の住まない保護区にしてはどうか。

● アンケート回答者の属性

① 年齢



② 大台ヶ原へ行った回数

